

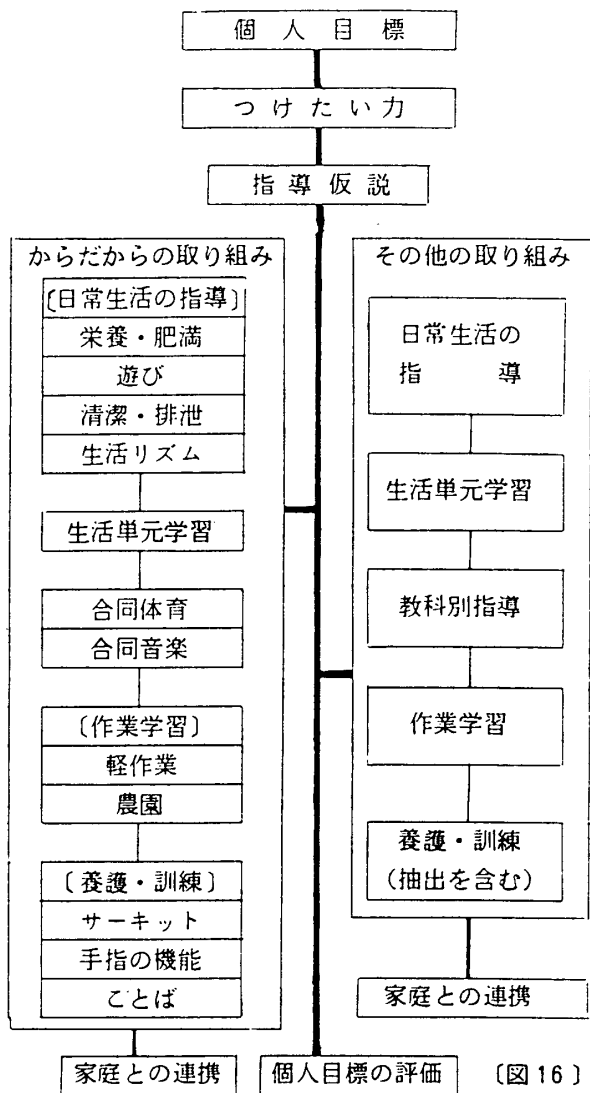
実践事例〔個人研究〕

1. 共同研究と個人研究について

我々は、生徒を担当した時点で、一人ひとりの生徒の発達の遅れや障害の偏りに応じて、過去の経過、これからの見通しを背景に、できれば一年間で達成できる見通しのある個人目標を全員に設定している。下に示す表5はその一例である。

その個人目標に迫るために「どんな力を」「どんな場面で」「どんな内容や方法で」つけていくかを個に応じて特徴的に組み立てたのが、右図13に示す個人研究の構想図である。この取り組みはp.51に示した全体研究構想の中のある部分に、より特徴的に重点を置いたものであったり、更に特別のつけ加えの方に重点を置いたものであったりまちまちであるが、学部全体で取り組んだ「からだづくり」の実践やその考え方を共通基盤とした個への取り組みである事に変わりはない。〔個人目標〕 (表5)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で友達と一緒に活動する子 ・ 友達と一緒にいきいきと活動する子 ・ 少しの失敗は気にせず、自信を持って、すすんで取り組む子 ・ 最後まで粘り強く作業や仕事に取り組む子 ・ 友達の中で安定し、少しは活動に参加する子 ・ 先生や友達の励ましを受けて、いろいろな事に取り組もうとする子 ・ 楽しく、いきいきと毎日が送れる子 ・ 目標にむかって根気よくがんばる子 ・ 自分なりの見通しを持ってみんなと一緒に取 |
|--|



以下、「からだを生かし使う自信から、表現意欲の高揚を図った」出脇の実践、「からだを使う経験を広げ自信をつけていく」白水の実践、「興味が持てる調理を中介に、家庭との連携で作業態度を育てようとした」八木恵美子の実践、「指示による単純な運動や活動のくり返しの中に情緒の安定と集団参加をめざした」前島の実践、「医師や家庭との連携でてんかん発作を見つめながら、楽しい毎日をできるだけ保障していこうとした」上田の実践、「からだを生かし使う自信から、逃避や落ち込みから自力で回復させたり、やる気を持たせたりしようとした」石脇の実践、「肥満を解消する事で、自分のやりたい課題にからだを自由にこなして取り組ませ、成就感や満足感から集中力や安定した心を育てようとした」岸田の実践を報告する。